

Level 1 + More Patterned Stories は、ORT の登場人物の名前と、基本的な動詞の読みと理解を促進するために製作されました。ご存じのように ORT は、イギリスの子どもの国語 (Literacy) の教材です。イギリスの子どもでも、みんながすらすらと読めるようになる訳ではありません。なかなか文字と音が結びつかない、いわゆる slow learners もいます。その子ども達のために作られた絵本は、EFL (English as a Foreign Language) として英語を学習している日本の子ども達の学習にぴったりです。なぜなら、1 冊に含まれる単語数が少なく繰り返しが多いため、英語に接する時間が非常に少ない日本の子ども達でも、英語の絵本を読んだという満足感を味わうことができるからです。

私はレッスンで多くの絵本を使います。その際、3 つの段階を考えます。

- | |
|---|
| 1) Pre-reading
2) Reading together
3) Follow-up |
|---|

- 1) では絵本に含まれる単語、トピック、構文をあらかじめ導入します。そうすることで、英語の絵本を読んでもらう子ども達の負担を少なくします。もちろん、この段階をレッスンで扱わなくても、子どもがすーっと理解してしまう優れた絵本はたくさんあります。また、コースブックで Family を学習したら、そこで学習した単語が幾つか含まれている絵本を読んであげることによって、子どもは自然に Reading together に入っていくことができます。
- 2) を単に Reading としないで Reading together としているのは、美しい朗読を聞かせるのではなく、子ども達が参加する楽しい読みの実践をするということです。絵本を楽しんでいる子どもは、Repeat after me. と言わなくても、先生(またはお母さん)と一緒に英語を声に出して読みたくなるものです。
- 3) の Follow-up では、絵本を何度も読んで吸収した英語を、別の場面(situation)や文脈(context)で使うアクティビティをします。こうすることで、子ども達は英語を自分の言葉として使うようになります。

Level 1 + More Patterned Stories は、1 冊ごとの英語が非常に少なくコントロールされていますから、1)の段階を飛ばして、いつ読んであげてもかまいません。1 冊ごとの具体的な活用法を参考に、子ども達と英語を楽しんでください。

また Level 1 + More Patterned Stories は、Level 1+ Patterned Stories と併用することもできます。同じパックの絵本を順番に読む必要はなく、Push!で家族ドライブでの出来事について話し合ったあとに、The Journey を読んで、同じトピックで英語を増やすこともできます。また、Fancy Dress を読んで Kipper was a pirate.という文の発展として、Kipper was hungry.で終わる Making Faces を読むこともできます。Level 1+ Patterned Stories と Level 1+ More Patterned Stories は全体で 12 冊のセットと考え、子どもの興味、既習事項に合わせて自由に選んで読んであげてください。

Level 1+ Patterned Stories	Level 1 + More Patterned Stories	共通事項
The Headache At the Park Good Old Mum The Pet Shop	What a Mess! Shopping Goal!	同じ文型で単語の入れ替え。 語順を意識させるアプローチが同じ。 got, had, made, put on, wanted, went。
Fancy Dress	Making Faces	同じ文型で単語の入れ替え。 was。
The Pet Shop	The Journey Who did that?	“XXXXXX,” said XXXXX.というパターンに慣れる。
Push!	The Journey	家族でドライブに出かけたときの出来事。

What a Mess!

- 1) 表紙を見せ、Kipper 一家がどこに行くのか考えます。壁の貼り紙の To the Show を読み、作品展に行くところであることを教えます。タイトルを読み、誰がどんなふう
に散らかすか、想像します。
- 2) 1 ページを見せ、絵を指さして Mum を確認し、dress という単語を引き出します。英
文を指さし、読めるかなと聞き、1 つでも読めたら誉めます。次は誰が何を作るの
か予測してからページをめくります。同様に 7 ページまで読み進み、最後は誰が
何を作るのか予測してから 8 ページを見ます。mess を「あきれた！」感じを出して
読みます。
- 3) この絵本は made の練習をするように作られています。何回も読んだら、
True/False ゲームをします。ボードに Mum made a scarf. と書き、声を出して読みま
す。これは絵本とは違うので、子どもは胸の前で手を X の形に組み合わせます。a
scarf を消して、a dress と書き、声を出して読みます。これは、絵本の内容と合っ
ているので、子どもは両手で O を作ります。名前と作ったものをどんどん書き直し、
その度に子どもに英文を声をだして読ませ、O か X で答えさせます。
- 4) 子どもが今までに作ったことのあるものについて話し合います。ボードに「I made」
と書きます。子どもに紙を配り、子どもは作ったことのあるものの絵を描きます。ボ
ードの英語を参考に「I made a snowman.」 のように英語を書きます。



Making Faces

- 1) 表紙を見せ、Kipper たちが何をしているか話し合います。タイトルを読み、色々な表情を作っているんだね、と分かったら、誰がどんな顔をするか想像させます。
- 2) 1 ページを見せ、場面について話し合います。単語カードを引いて、その単語の表情をして当てるゲームをしているようですね。Dad の単語の意味は何か話し合ってから、英語を読みます。次は誰がどんな表情をするか予測してからページをめくります。2 ページ以降の Kipper の様子に注意を向けましょう。そうすると、最後のページの Kipper was hungry を予測することができます。
- 3) この絵本は was の練習をするように作られています。子ども達は登場人物の名前と was を読めると、感情を表す単語を読むことに集中することができます。絵本のように、単語カードを作り、1 枚ずつ見せ、読んで聞かせ、その表情を作ります。最初は fierce, sad, good, frightened, hungry の順に練習し、慣れたら順番を変えます。慣れたら、happy, thirsty, afraid, surprised, worried など、色々な単語を加えましょう。
- 4) 当てっこゲームをします。先生が I was sad. と言います。子どもは絵本の中で sad だった人物の名前を言います。Chip が正解です。慣れたら、子どもが出題者になります。リスニングからスピーキングに発展させるゲームです。

The Journey

- 1) 表紙を見せ、みんなが何をしているか話し合います。タイトルを読みます。(journey という単語は、ただの旅行というより長旅、長道中という意味があります。絵本の内容を暗示しています) 車の旅行をしたことがあるか聞き、そういうときどんなものを持って行ったか、車の中でどのように過ごしたか聞きます。Kipper たちの旅行で何が起きるか想像します。
- 2) 1 ページを見せ、絵について話し合い、Kipper はどんなことを言っているか想像します。英語を読みます。次は誰がなんと言うか予測してからページをめくります。同様に 7 ページまで読み、8 ページを予測しましょう。
- 3) この絵本は、どのページも "I'm XXXXXX," said (name). となっています。said を見て読めるようにします。ボードに
"I'm bored," said .
"I'm hungry," said .
"I'm thirsty," said .
"I'm cross," said .
"I'm lost," said .
と書きます。Kipper たちの絵カードを said の横に留めて、絵本の本文のバリエー

ションを作り読みましょう。絵カードを様々に入れ替えて、True/False ゲームをしても良いでしょう。The Journey には、said Floppy.で終わる文がありません。Floppy が話せたら、各ページでなんというか子ども達と考え、ボードに書き出して見せましょう。Making Faces で出てきた sad, good,などの単語を思い出させます。

- 4) Making Faces と文型を入れ替えてみましょう。例えば、Making Faces の 1 ページを見せて、“I’m fierce,” said Dad.と読み上げます。また、The Journey の 1 ページを見せて、Kipper was bored.と読み上げます。

Goal!

- 1) 表紙を見せ、誰がサッカーをしているか想像します。タイトルを読みます。サッカー好きな子どもが多いので、どんなチームが好きか、どんな選手が好きか、ここで話し合ってもよいでしょう。
- 2) 1 ページを見せ、絵について話し合います。子ども達は、真ん中でプレイしているのが Dad だとわかりますか？ 応援している Mum, Biff, Chip, Kipper を確認しましょう。社会人のゲームのようですね。2 ページで何が起こるか想像してからページをめくります。wet, cold, tired, miserable, cross の意味は、子どもに絵から想像させ、分かったら単語を言いながら表現する動作や表情を考えましょう。7 ページまで読んだら、8 ページについて話し合ってからページをめくります。表紙とタイトルを思い出させ、予測させましょう。
- 3) この絵本は got の練習をするように作られています。2 回目以降の読みでは、英文を指さして読んで、どの単語を読んでいるか分かるように進めます。また、2 ページと3ページの英文は wet と cold が入れ替えられています。2つの文を見比べて、子どもが差を自分で発見できるようにし向けましょう。
- 4) (name) got (XXXXXX). と英語を聞かせ、絵本の内容とあっているかどうか True/False ゲームをしましょう。子どもの実体験を話させ、それを I got (XXXXXX). という文で発表させましょう。

Who Did That?

- 1) 表紙を見せ、Mum が何を見てどんな気持ちなのか話し合います。The Journey、Goal! を見せ、ぴったりの単語を探させましょう。そう、cross ですね。タイトルを読み、「誰がやったの？」という意味を教えます。
- 2) 1 ページを、英文を隠して見せ、絵について話し合います。このページにはどんな英語が書いてあるかな？と問いかけます。少しでも発言したら誉めます。次に、単語 1 つずつ見せていき、読めたら誉めます。Mum was cross.と読んで聞かせます。2 ページで何が起きるか想像してからページをめくります。7 ページまで読んだら、

8 ページで Dad がなんと言うか予測してからページをめくります。8 ページは、1 ページと同様に英語を隠して見せ、単語1つずつ見せて、子どもの読みをサポートします。

- 3) この絵本は、“It was (name),” said (name).という絵本のナレーションのパターンに慣れるように作られています。4-5 ページでは、名前を入れ替わった英文が並んでいますから、見比べて、子どもが自分で読むきっかけにします。
- 4) Who did that? ゲームをします。子どもは輪になって立ち、目を閉じて両手を背中に回します。先生は It was me.と書いた紙片を1人の手に握らせます。子どもは目をあけます。先生が Who did that?と言い、子どもの1人をにらみます。にらまれた子どもは It wasn't me. It was (Kota).のように誰かを指します。Kota は It wasn't me. It was (XXXXX).と言います。全員が、罪のなすり合いをしたら、先生はもう一度 Who did that?と聞きます。紙片を持った子どもが It was me.と告白してゲームは終わります。2 回目は、最初の犯人が Who did that?と聞く役になります。
- 5) 4)のゲームの発展として、1) Who took the candy?と聞いて、キャンディーの包み紙を手に握らせる、2) Who lost the key?と聞いて、何もついていないキーホルダーを手に握らせる、など様々な動詞を自然に聞かせることができます。

Shopping

- 1) 表紙を見せ、Chip が何をしているか話し合います。biscuit は cookie と同じだよ、と教えると、Chip がクッキーを作ろうとしているということが理解できるでしょう。タイトルを読みます。デパートでのお買い物だけでなく、日常の店でのお使いも shopping と言うことを教えます。
- 2) 1 ページを見せ、この場面について話し合います。クッキーを作るのには、何が必要か話し合い、材料を英語で言ってみます。ボードに書き出しても良いでしょう。英語を読みます。2 ページで、Chip がどんなお店に行くか予測してからページをめくります。2-3 ページの絵について話し合ってから英語を読みます。crisp はポテトチップスのことだと教えます。同様に 7 ページまで読み進み、8 ページの英語を予測します。
- 3) この絵本は wanted, went, got を復習するために作られています。forgot は、絵を見て意味がわかるようになっています。子どもが忘れ物をしたとき、I forgot (XXXXXX).と言うようにします。
- 4) 名詞を入れ替えて絵本のバリエーションを作りましょう。

例:

表紙: Biff がサラダの作り方を読んでいる。

- 1 ページ: Biff wanted some tomatoes.
- 2 ページ: She went to the supermarket.
- 3 ページ: She got some chocolate.
- 4 ページ: She went to the shop.
- 5 ページ: She got a comic.
- 6 ページ: She went to the market.
- 7 ページ: She got a teddy bear.
- 8 ページ: She forgot the tomatoes.

Level 1+ More Patterned Stories

What a Mess! なんて散らかってるの!

「学校でクラフトショーをやるんだって」とママが言いました。クラフトショーとは、手作りの品をめいめいが持ち寄って出品し、そのできばえを競うショーのことです。優秀作品は賞をもらえます。ビフたち家族もこのショーに参加することにしました。じっくりと時間をかけて悩んだ末に、ママはドレスを、パパはジャムを作ることに決めました。パパは、子ども達の一番好きなイチゴジャムを作って一瓶をショウに出品し、残りを棚で保存することにしました。「それはいいわね。でも、私の作ったドレスにべたべたのジャムをつけちゃいやよ」とママ。パパが「気をつけるよ。前にも作ったことあるだろう」と言うと、「そうだったわね。それでキッチンごと新しくしなきゃならなくなったんじゃない」とママは冗談を言いました。パパは大笑いです。チップも、ずいぶん悩んでから、マフラー(scarf)を作ることに決めました。以前おばあちゃんが編物を教えてくれたことを思い出したのです。ママが編物の中でも一番簡単なマフラー(scarf)にするようアドバイスし、後で手伝ってくれることになりました。ビフは模型作りが得意なので、自分の力でトラック(lorry)を作ると言いました。ビフとチップがそれぞれ違うものを作ることになったので、けんかにならなくてすむだろうと、ママはほっとしました。

「ずるいよ」とキッパーが言いました。キッパーも、他のみんなのように何かを作りたいかったけれど、何を作ればよいのかわからなかったのです。そこで、みんなでキッパーが何を作ったらよいか一生懸命考え、結局、パパのアイデアでパースデーカードに決めました。キッパーは絵が上手だし、クレヨンもフェルトペンもたくさん持っているからです。そこで、キッパーは色とりどりのお花をデザインしたパースデーカードを作りました。

さあ、ショウの時間です。みんな、時間までにそれぞれの作品をこしらえることができました。パパはイチゴジャム、ママはドレス、ビフはトラック、チップはマフラー、キッパーはパースデーカード。でも、それ以外に、もうひとつみんながこしらえたもの——それは、散らかし放題の物の山! でも、一家はショウの会場でとても楽しんでいたので、誰もそんなことは気にしませんでした。誰か、賞はもらえたのかな?

What a Mess!

- PG 1 Mum made a dress.
PG 2-3 Dad made some jam.
PG 4-5 Chip made a scarf.

なんて散らかってるの!

- ママはワンピースを作った。
パパはジャムを作った。
チップはマフラーを作った。

	Biff made a lorry.	ビフはトラックを作った。
PG 6-7	Kipper made a birthday card.	キッパーは誕生日カードを作った。
PG 8	Everyone made a mess.	みんなで散らかした。

Making Faces 顔を作る

“Making Faces”というゲームを知っていますか？ルールはこうです。「悲しい」とか「嬉しい」などと書かれたカードを一枚ひいて、そのとおりの表情を作るのです。周りの人たちは、その表情をみて、カードに書かれていたことをあてます。

ママの誕生日のことでした。ママの希望に沿って、パパが家族だけのささやかなパーティーを企画しました。そこで、みんながやったゲームのひとつが“Making Faces”です。一番手はキッパー。“surprised(びっくりした)”というカードをひきました。ビックリした顔をキッパーが作ると、すぐにパパが言い当てました。パパがひいたカードは“fierce(どうもうな)”です。「簡単だい」とキッパーは思いましたが、自分の番はすでに終わってしまっていたので、これだと思った答えは言わずにおきました。チップがひいたのは“sad(悲しい)”でした。チップが作った表情をみて、ビフは「病気(ill)！」と言いました。「違うよ。かすってもないよ」とチップ。ママは「不幸(unhappy)」と言いました。「おいしい」とチップ。「わかった。『悲しい』だ」とパパ。「そう、その通り」チップが言いました。キッパーはゲームに退屈し始めました。パーティーのごちそうをもっと食べたかったのです。

「うわー、むずかしいのが当たっちゃったわ」自分の番がくると、ビフはそう言いました。“good(いい子)”というカードが当たったからです。チップはビフの作った表情を見て、「『眠たい(sleepy)』でしょ。ビフは眠たい時、いつもそういう顔してるもん」と言いました。「全然違うわ」とビフ。パパが笑いました。「どうしてビフがむずかしいと思ったのか分かったぞ。いい子にみせようとしてたんだろう！」「それなら、チップがそのカードをひかなくて幸いだったわね」とママが冗談を言いました。「いい子に見せるの、ビフ以上に苦労したかもしれないわよ」

ママの番が来ました。カードは“frightened(ギョツとした)”でした。あまりにもママの演技が本格的だったので、双子たち(ビフとチップ)は笑い出し、パパはショックを受けてしまいました。パパは、「ママは『ギョツとした』じゃなくて、『震え上がっている(horrified)』を演じようとしてるのかと思ったよ」と言いました。あれれ？キッパーがいません。キッパーはおなかがぺこぺこだったので、キッチンへ戻って、またごちそうを食べていたのです。そんなキッパーを見て、みんなが笑いました。「どうしたことかしら」とママ。「“Making Faces”ゲームには、きっと“greedy!(欲張り)”っていうカードが入ってたのね」

Making Faces

顔を作る

PG 1	Dad was fierce.	パパは怒っていた。
PG 2-3	Chip was sad.	チップは悲しかった。
PG 4-5	Biff was good.	ビフはいい子だった。
PG 6-7	Mum was frightened.	ママはぎょっとした。
PG 8	Kipper was hungry.	キッパーはお腹がすいていた。

The Journey 旅行

一家は休暇を利用して、長い旅行にでかけました。車に乗り込んだ子ども達はあまりにも興奮して落ち着きがなかったので、パパに注意されました。「おとなしくしてなさい。これから先もまだまだ長いんだよ」そう、それは本当に長い旅行だったのです。おまけに、交通渋滞のせいで、さらに長くなろうとしていたのです。

「あーあ、なんてこったい！この交通渋滞のひどいこと。別の道にすればよかった」とパパが言いました。「どの道にしても同じだったと思うわ」とママ。後ろの席では子ども達がそわそわと落ち着きません。「ぼく、飽きちゃった」とキッパーがつまらなさそうに言いました。「いつになったら着くの？」「辛抱しなさい。退屈しのぎにみんなで“I spy”が何か、ゲームでもしようよ」とパパが答えました。

あまりにも長い間車の中で座りっぱなしだったので、車が“The Big Eater(大食漢)”というカフェに止まったときには、子ども達は大喜びでした。ビフとチップはカフェに駆けていきました。「私、お腹ペコペコ」とビフ。「ぼく、喉がカラカラ」とチップが言いました。「ぼくの飲み物も忘れないでいてくれるといいのだけど」とフロッピーは思っていました。「だって、ぼくはどうせカフェの中には連れて行ってもらえないもの」

カフェで一休みした後は、みんないくらか機嫌がよくなっていました。ママは地図を見て、交通渋滞を避けるために別の道に行くことにしました。でも、それが間違いだったのです。数分後、みんなの前に現れたのは、大きな矢印の標識で、それはママが決めた道は通れませんよ、という合図だったのです。子ども達はそわそわだし、言い争いを始めてしまいました。「頭にきたぞ！」とパパは言いました。「君たちがそうやって文句を言ったり言い争ったりするのを止めないと、もっと怒るよ。」

ママは更に運転を続けましたが、本当に正しい道を走っているのか、分からなくなってしまうました。道幅はずいぶん狭くなり、荒野になりました。家も木も他の車も見当たりません。ついにママは車をとめて地図を広げると、「迷っちゃった」と言いました。「やっぱりメインロードのままにしておけばよかったんだ」とパパがぶつぶつ言いました。「一体いつになったら着くの？」とキッパーが今までで一番不満そうに聞きました。

ついに海辺に到着することができました。「やったー！」とみんなが言いました。「永遠にたどり着かないかと思ったわ。なんて旅行になっちゃったのかしら！」幸運なことにお日様はまださんさんと輝き、潮はまだひいていませんでした。遊ぶ時間もまだまだあります。「靴を濡らさないようにね。脱いでからなら海の中を歩いてもいいよ」そして子ども達は——それに、パパもママも！——その通りにしました。そして、みんな、水かけっこをしたり波打ち際を走ったりしているうちに、海へたどり着くまでの悲惨な道のりのことなど忘れてしまいました。

The Journey

旅行

PG 1	'I'm bored,' said Kipper.	「飽きた」とキッパーは言った。
PG 2-3	'I'm hungry,' said Biff. 'I'm thirsty,' said Chip.	「お腹がすいた」とビフは言った。 「喉がかわいた」とチップは言った。
PG 4-5	'I'm cross,' said Dad.	「頭にきたぞ」とパパは言った。
PG 6-7	'I'm lost,' said Mum.	「迷子になったわ」とママは言った。
PG 8	'Hooray!' said everyone.	「やったー！」とみんなは言った。

Goal! ゴール!

パパがサッカークラブに入りました。毎週日曜日に公園のそばのグラウンドで試合があります。初めて試合に参加した日のことでした。パパはとても真剣でした。何日も練習をしてきて、ついに今、実際の試合でプレイできるのです。「みんなでパパの初めての試合を観に行くわよ。パパを応援してあげなきゃね」とママが言いました。「フロッピーも？」とキッパーが聞くと、「ええ、フロッピーもよ。フロッピーだって、やっぱり家族の一員だもの」とママは答えました。問題は、それが寒い日だったということです。子ども達はサッカーフィールドに立って試合を観るのはかんべんしてもらいたと思っていました。

試合が始まると、すぐに雨が降り出しました。ひどい雨だったので、みんなはびしょぬれになりました。凍るような風が吹いて、みんなは寒くなってしまいました。「頑張れ!」、「行け、パパ!」子ども達が応援しましたが、パパは試合に集中していたので、気づきませんでした。「ぼくらが家に帰っちゃったら、パパはわかるかな？」とチップが聞きました。ママは答えました。「わかると思うわ。私たちがここで応援しているのを、パパは喜んでいるのよ」

かなり長い間、試合が続きました。特にフロッピーとキッパーにとってはずいぶん長い時間のように感じられました。犬というのはじっとしたまま立っているのが好きではないし、サッカーの試合にだって、あまり興味を持たないものです。だから、フロッピーもすぐにうんざりしてしまい、ぺたんと座りこむと、あくびをし、今にも眠りこんでしま

いそうなそぶりになりました。キッパーも辛そうです。試合への興味が薄れ始めていて、どんどん寒さが増していきました。「家に帰りたいな」キッパーは思いました。両手をこすりあわせ、両腕をさすり、体を温めようとしたのですが、暖かくなりませんでした。

突然、審判が笛を鳴らしました。パパがイエローカードを出されてしまったのです。「あーあ、パパったらイエローカードくらっちゃったよ」とチップが言うと、キッパーがその意味をたずねました。「何かよくないことをしちゃったっていう意味よ」とビフ。「誰かに足をひっかけちゃったの。いけないことなの。それはフェアプレイじゃないでしょう。もしもう一度イエローカードを出されたら、それ以上プレイできなくなるのよ」

でも、ママは頭にきていました。「パパはばかだね。イエローカードを出されて当然よ」そして、握りこぶしを差し上げて振りながらパパに向かって叫びました。「何やってるのよ」パパはめんくらったようです。速く走りすぎて、うっかり別の選手を転ばせてしまいました。

でも、ママの怒りもキッパーの寒さも、そう長くは続かなかったようですよ。だって、パパがゴールを決めたんです。それは、この試合でただひとつのゴールになりました。そう、パパのチームが勝ったのです。みんな叫んだり手を叩いたりして、大喜び。「やったね」とチップとビフが叫びました。キッパーはびよんびよん飛び跳ねて、パパに手を振りました。「すごかったわ！」とママ。この騒ぎにビックリしたのはフロッピーです。すっかり目が覚めてしまいました。

みんなはウキウキした気持ちでお家へ帰りました。暖炉の前にいたらびしょぬれもすぐに乾き、パパのゴールのお祝いにみんなでホットチョコレートを飲みました。

Goal!

PG 1 It was a cold day.
PG 2-3 Everyone got wet.
Everyone got cold.
PG 4-5 Floppy got tired.
Kipper got miserable.
PG 6-7 Mum got cross.
PG 8 Dad got a goal.

ゴール!

寒い日だった。
みんな濡れた。
みんな寒くなった。
フロッピーは疲れた。
キッパーはみじめになった。
ママは腹を立てた。
パパがゴールを決めた。

Who Did That? 誰がやったの？

ママはムツとしていました。紅茶をもってキッチンから出てきたとき、壁紙にシミがついているのを見つけたのです。「あら、いやだ！ 誰が黒いシミをつけたのかしら」壁紙は新品でした。それに、汚れがスポンジでこすれば落ちるものかどうか分かりません。「汚れたものを家の中に持ち込んではいけないと、あの子たちには散々言い聞かせてあるのに」ママは子ども達を呼び、見せたいものがあると言いました。子ども達とフロッピーが大急ぎでやってきました。ママはドアのところに立っていました。子ども達には、ママが話す時の調子で、どうやらママは何か腹をたてているらしいと分かりました。

ママは、何か怒っている時にいつもそうするように、一語一語を強くきっぱりと言い切る喋り方で話をしました。「誰がやったの？」とママは言いました。ビフは、チップが汚れたサッカーボールを家の中に持ち込んでいたのを思い出して「チップよ」と言いました。でも、チップにはシミをつけた覚えはありませんでした。「いや、あの、えーつと」と口ごもりましたが、何を言えばよいのか分かりませんでした。

そうこうするうちに、チップは、前にキッパーが泥だらけのスニーカーを履いていたのを思い出しました。「キッパーだよ」とチップ。でも、キッパーは「ぼくじゃない。ぼく、やってないよ」と言いました。キッパーは、朝、フロッピーが庭で遊んでいたこと、最後に見たときには足が泥だらけだったことを思い出しました。キッパーはフロッピーを指差して「フロッピーだい」と言いました。「ぼくじゃない」とフロッピーは思いました。「ぼくは無実だよ」

そこでビフとチップも足を泥んこにさせてフロッピーを見たことを思い出しました。自分達にはシミをつけた心当たりがなかったので、フロッピーのしわざに違いないと思ったのです。実際、フロッピーは時々家中を走り回ることがありました。「そうよ、フロッピーのしわざだわ」とビフ。「これだもの」とフロッピーは思いました。「だから、子どものいうことは時々信じられないっていうのさ」その時です。子ども達のやりとりを聞いていたパパがやってきて、「フロッピーじゃないよ」と言いました。

事情はこうです。パパがバスルームの洗面台のつまりをとりのぞこうと作業していた時に、汚れた水がたくさん床にこぼれてしまいました。パパはその水を、モップで拭き取りました。でも、その時、うっかり一階の壁をモップでこすってしまい、汚れをつけてしまったのです。犯人はパパだったのです。「そうだよ。ぼくだったんだ」ビフとチップとキッパーはフロッピーに、まちがって責めてしまったことを謝り、ママはフロッピーにビスケットをあげました。パパも申し訳なかったと言って、清潔な布きれで壁紙につけてしまった汚れを拭き取りました。

Who Did That?

誰がやったの？

PG 1	Mum was cross.	ママは腹を立てた。
PG 2-3	'Who did that?' she said. 'It was Chip,' said Biif.	「誰がやったの？」と言った。 「チップよ」とビフは言った。
PG 4-5	'It was Kipper,' said Chip. 'It was Floppy,' said Kipper.	「キッパーだよ」とチップは言っ た。 「フロッピーだよ」とキッパーは言った。
PG 6-7	'It was Floppy,' said Biff. 'It wasn't Floppy,' said Dad.	「フロッピーよ」とビフは言った。 「フロッピーじゃないよ」とパパ が言った。
PG 8	'It was me.'	「ぼくだよ」

Shopping 買い物

チップとパパは、こっそりビスケットを作って、ママを驚かせようと計画しました。チップはお菓子の本をみて、「ジンジャーブレッド」というビスケットを作ることに決めました。ところが、必要な材料が揃っているかどうかパパと確かめてみると、砂糖だけがないことがわかりました。

そこで、チップはパパを誘って買い物にでかけました。スーパーマーケットで、チップは買い物カートを押しながら様々な商品を見て回り、大好きなポテトチップス(crisps)を買いました。そして、パパが缶入りのスープを選ぶのも手伝ってあげました。

スーパーマーケットからの道ぞいには新聞や雑貨を販売しているお店(newspaper shop)がありました。パパが新聞代を払うためにこのお店に立ち寄り、お店の人と話をしている間に、チップは店内を見て回りました。チップは長い時間をかけてすべての漫画雑誌を見比べてから、『フリップフロップ』と言う名前の、お気に入りの雑誌を買いました。

帰り道、チップとパパは、土曜市のそばを通りかかりました。パパがママのために安いビデオテープを買いたいと言うので、ちょっとだけ寄り道することにしました。チップは中古のおもちゃのお店で長いこと品物を眺めてから、お小遣いの最後のお金をつかってボールを一つ買いました。前のはパンクしちゃって使えなくなっていたから、ビフが喜ぶだろうな、とチップは思いました。パパが腕時計を見て、「急いで家に帰らなくちゃ。出かけてから、もう何時間もたっちゃった」と言いました。

チップとパパがようやく家に戻ると、「長い間、おでかけしてたのね」とママが言いました。「ちょっと買わなきゃいけないものがあったんだよ。ひとつふたつ欲しいものがあってね、だからチップと一緒に出かけたんだ」とパパ。「あら、そうだったの。何かお

料理でも始めるところだったみたいね」とママ。「そのとおり。チップがママのためにビスケットを焼いて、びっくりさせようとしてたのさ。でも、材料が足りなかったんだ。砂糖は手に入ったんだろう、チップ？」パパに聞かれて、チップは頭を叩きました。だって、チップはポテトチップスと漫画雑誌とボールを買って、砂糖を買い忘れていたのです。「あらまあ。でも、気持ちだけはいただいとおくわ」とママは言いました。

Shopping

PG 1 Chip wanted some sugar.
 PG 2-3 He went to the supermarket.
 He got some crisps.
 PG 4-5 He went to the shop.
 He got a comic.
 PG 6-7 He went to the market.
 He got a ball.
 PG 8 He forgot the sugar.

買い物

チップは砂糖が必要だった。
 彼(チップ)はスーパーマーケットに行った。
 彼(チップ)はポテトチップスを買った。
 彼(チップ)はお店に行った。
 彼(チップ)はマンガを買った。
 彼(チップ)は市に行った。
 彼(チップ)はボールを買った。
 彼(チップ)は砂糖を忘れた。